

まちのお医者さんになって空気の汚れを調べよう

～子どもたちによる二酸化窒素測定～

(財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

小平智子

1) 子どもたちと一緒に、まちのNO2測定

公害をおこさないためにも、まちの環境の変化を感じ取る目を子どもたちに持ってほしい。あおぞら財団では、小学生を対象に、春はタンポポ調べ、夏はセミのぬけがら調べ、秋は淀川でハゼ釣り、冬は二酸化窒素測定と、季節に応じた環境測定の実施をしています。その中のひとつ、二酸化窒素のカプセル測定は2005年より実施しています。

2) イベントの企画・運営は学童指導員や大学生

イベントの企画・運営は「子どもの参画べんきょう会」で行っています。子どもの参画べんきょう会は、地域の学童保育所や、ガールスカウトの指導員、環境学習に関心を持つ大学生などが参加をしています。子どもたちが地域づくりへの参加や、子どもたちの目が環境にむくためにはどうしたらよいかを皆で話し合い、イベント企画をしています。また、子どもたちとの日々の出来事を報告したり悩みを相談したりする場もあり、わきあいあいとした会になっています。

イベントは、大阪市教育委員会からご後援を頂き、西淀川区内の全小学生、約6000名の手

にイベントチラシがわたるよう区の小学校の校長会でお願いして全校に届けます。資金については「子どもゆめ基金」等の助成を受けています。

年によって違いますが、学童保育所の子供たちなど100名近い参加者が集まります。なかには子どもがぜんそく持ちなので参加をしたという親子もいました。

3) 巨大マップ、語り部...プログラムの工夫

参加者には事前に測定用カプセルを配布、はかりたい場所につけてもらいます。イベ



ント当日、とりつけたカプセルを持ち寄り、試薬を入れて測定します。

測定体験だけではなく、プログラムも工夫をしています。測定結果を 0.06ppm 以上は「よごれている！：赤シール」、0.04～0.06ppm は「まだまだ注意：黄シール」といった具合に、場所による空気の汚れがわかるよう色別シールを地図に結果をはりつけ、参加者同士、情報を共有します。



空気の汚れ 巨大マップ

毎年調査を重ねる中で、プログラムも同じものにならないように工夫をします。2007年度は、SCP ブロックと呼ばれる土地利用の変遷と二酸化窒素の発生源がわかる教材を使ったワークショップを実施しました。また 2008 年度は、西淀川公害患者と家族の会にご協力を得て、被害者の方に語り部をしていただきました。

企画運営に常に子どもと接する大人たちの意見が反映したり、学生の豊かな発想や若い力があるからこそ、毎年様々なプログラムを工夫しながら実施することが可能となっています。

4) 子どもたちに期待すること

昨年、2008 年 12 月 26 日に実施をした空気の汚れ調べのイベントに参加をした子どもたちの感想を紹介します。一番感想に多かったのは公害患者の語り部、岡崎久女さんの話に対するものでした。岡崎さんの語り部により、空気の汚れ調べの意味が子どもたちにしっかり届いたようです。

参加者の感想（一部）

- ・岡崎さんがそんなめにあっていたとは思いませんでした。今からでもいいから、空気をきれいにしようと思いました。岡崎さんが元気になるのをねがっています。(大和田小、4年、女子)
- ・たくさんの方がしんでしまってかわいそうでした。おかざきさんの子どもがびょうきになってかわいそうでした。(つか本小、1年、女子)
- ・いろいろなばしょの空気がしらべられておもしろかったです。おかざきさんの話をきいてかわいそうでした。(野里小、2年、女子)
- ・どうるの近くはくうきがきたないことがわかった(みて島小、4年、男子)

西淀川は転入者も多く、公害の過去を知らない人も増えています。参加者にはぜんそくの子どものもいます。この子どもたちの体験が「環境のまち 西淀川」をつくる力となることを願ってやみません。